2023 SF 空手道 級位者全国大会に寄せて

二代目宗家　平野不動

《為せば成る為さねば成らぬ何事も　成らぬは人の為さぬなりけり》

表題の言葉を残した上杉鷹山は、江戸時代中期から後期にかけて、深刻な財政危機で日本一貧乏な藩といわれた米沢藩に九歳のとき時養子として招かれました。十七歳で藩主となってからも自己研鑽を怠ることなく改革を推し進め、幾多の挫折を重ねるも決して諦めず、五十年以上もかけて米沢藩を豊かな藩へと生まれ変わらせ、藩士や領民から敬愛されつつ幕府からも幾度か賞賛された名君です。

十四歳からの師である細井平洲をはじめ、多くの人や書物からいつも謙虚に学び、威張ることなく皆を信頼し、人々の為に《忠恕の心》で尽くしたその人柄や人格からは、本当に学ぶことが多くあります。

1961年に 43 歳で第35代米国大統領になったジョン・F・ケネディが就任した時、日本の新聞記者の「日本で最も尊敬する政治家は誰ですか」の質問に「上杉鷹山です」と答えたそうです。2013 年に駐日米国大使に就任した長女キャロライン・ケネディも「父は上杉鷹山を尊敬し、大統領就任演説に代表される考え方に影響を与えた」と述べました。

「国家があなたの為に何ができるかを問うのではなく、あなたが国家の為に何ができるのかを問うてほしい」

ケネディの有名な言葉です。

また、上杉鷹山が次代の藩主に残した《伝国の辞》にはこう記されています。

「藩主の為に国家や領民が存在するのではなく、藩主は領民の為の政治をしなければならない」

藩主や藩の為に、藩士や領民が存在するという考え方が当たり前だった時代に、こんな考えに至っていたということは、その学びの深さや思慮深さをあらわすだけでなく、まさに忠恕の人であったと思います。

誰かに頼るのではなく、行動の主体をいつも自分自身に置き、藩士や領民に求めたことは自らも率先して実践したことから、その言動や打ち出す方針には説得力がありました。藩士や領民にもそれぞれ自立の術を考案して浸透させることで、民の暮らしを豊かにしていきました。
殿様であるにもかかわらず、お忍びで老婆の農作業を手伝ってくれたというエピソードが書簡で残っているほど《優しさのリーダーシップ》で人々の心を変え、その暮らしを支えようとした鷹山の現代にも通じる政治家や経営者としての手腕は、今でも多くの人の心を動かしています。

さて、この大会に参加する選手の皆様。
たとえ1回戦で負けたとしても、気持ちまで負けないでください。
決して諦めることなく次なる挑戦と成長の為に、しっかりと考えて行動することを忘れないでください。

また、勝ち進んで結果を残すことが出来ても、満足してしまって向上心や謙虚さを失えば、学ぼうとする気持ちが消えて、ゆくゆくは敗者以下の結果が待っていることを忘れないでください。

目先の勝敗よりも技術にこだわり、勝っても負けても「上手く出来たか」「美しい組手だったか」を大切にしてください。

《やればできる！やらなきゃできない何だって。成功しないのは、途中で諦めてやり遂げないからだ》
あなたの心に鷹山のこの言葉はどう響きますか？

為せば成る為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり

上杉鷹山